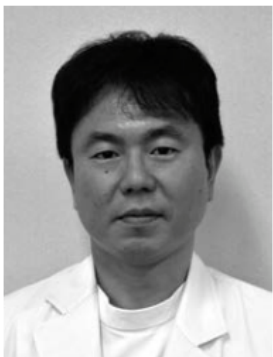


「治癒可能な高血圧」



内科部長

藤原 貫為

山香病院だより vol.83

ることができ、これらの結果、より疑わしい場合に④が施行可能な施設(大学病院など)にご紹介することとなります。

■治療

診断の結果、片側性(副腎は腎臓同様、左右両方にありません)の原発性アルドステロン症と診断された場合、腹腔鏡下副腎摘出術となります。

腹腔鏡下術は開腹術と比べ小さな傷痕しか残らず、術後の痛みが少なく回復も早いため、入院期間が短くて済むなどの利点があります。そしてなによりも血圧が正常化し降圧薬が不要となる可能性があります。

副腎は片方しか摘出できないので両側性の場合、あるいは片側性でも手術を希望されない場合は内服治療となります。

最近では通常の降圧薬と異なる、アルドステロン作用による臓器障害を抑える効果のある降圧薬もでてきています。

初めて高血圧と診断された方だけでなく、現在治療中の方も、ぜひ一度当院で検査を受けられることをお勧めします。

はじめまして。本年4月から内科に赴任した藤原貫為です。

今回は治癒可能な高血圧の代表的疾患である「原発性アルドステロン症」についてお話したいと思います。

■原発性アルドステロン症とは?

日本人のおよそ3人に1人は高血圧といわれていますが、その5〜10%はこの疾患によると報告されています。

この疾患は、アルドステロン、というホルモンが体内で過剰に分泌されることにより引き起こされる高血圧症で、腎臓の上にある副腎という小さな臓器にできた腫瘍が原因です。

■疑わしい高血圧

すべての高血圧でこの疾患を疑う必要があります。

低カリウム血症、中等度以上の高血圧、治療抵抗性高血圧、副腎腫瘍、若年の脳血管障害など、臓器障害と合併して発症している場合は要注意です。

■リスク

過剰に分泌されたアルドステロンは動脈硬化の原因にもなり、本態性高血圧と比較して心血管合併症のリスクが3〜5倍高まるとされています。

■診断

診断では主に①血液検査、②負荷試験、③腹部CT、④副腎静脈サンプリングを行います。①〜③は当院でも施行す